

千話万来

2023年12月313号

株式会社シイビイシー 小玉亜衣

人事教育コンサルタント・産業カウンセラー・生産性賃金管理士

TEL 027-266-6855 FAX 027-266-6856

E-mail kodama@linxcbc.co.jp

〒379-2121 群馬県前橋市小屋原町1082-3

— HQM 活動発表会（改善活動発表会）を拝見してきました —

機械製造業のお客様の企業で改善活動の発表会があり、拝見させていただきました。10年以上改善活動を続けてきている企業さんなので、発表会の進行は慣れたもので、とてもスムーズに行うことができます。発表の仕方とても慣れていて、皆さん上手に発表してくださいました。

中でも営業課の発表はさすが営業課!と唸ってしまうほど聴き取りやすく、日頃から相手が理解しやすい、聞き取りやすい伝え方を意識しているのかなと感心しました。

内容は各サークル様々で、取り組み内容の濃さには差がありました。大きく分けて2種類のテーマに分けてみる事が出来ます。やるべきことに今まで手を付けられなかった部分をテーマにしたサークル、今の業務のプラスアルファになるような取り組みをしたサークルがありました。どちらのテーマも課にとって必要な事なので、素晴らしい取り組みだったと思います。何よりも、改善したことで、自分達の仕事がやりやすくなる、楽になる、短時間で出来るようになる事が一番です。

改善に限りなし、今の状態から少しでも良くなるように、皆さんの職場でも改善を続けてみてください。

— 1年の振り返りを忘れずに —

早いもので2023年も1か月を切りました。今年一年はどんな一年でしたか？2024年が目の前に見えていると、来年はああしようこうしよう来年どんな年にしたいのかを考えたりします。

この時に忘れないで欲しいのが、2023年の自分の振り返りをきちんと行うことと、今の自分の状態や置かれている環境をきちんと把握することです。「振り返りをせずに来年のことを考えない」ということが大事なのです。

今年良く出来た、上手くいった、成果が出たことに関しては、どうして上手くいったのかを考え来年に活かしていきます。また、上手くいかなかった、上手に出来なかった成果が思うように出なかったことに関しては、どうして上手くいかなかったのか、原因を考え、どうしたら上手くいったのだろうと仮説を再構築することが大切です。

やろうと計画していたことが、計画通りきちんと実行できたのかという視点の振り返りも大事です。実行できたのなら、どんな段取りをしたことで実行につながったのか、実行できなかつたり、遅れが出てしまつたりした場合には、どうして出来なかったのか、遅れてしまったのかを考えます。

あたりまえのことなのですが、きちんと振り返ることが出来る人は多くありません。

きちんと振り返り、それを活かすことで、来年は今年よりも成長できるでしょう。

今年1年間頑張ってきたことを無駄にしない為にも、振り返りを活かすことを実践してください。

— 自分の物差しだけで人を教育しない —

人が人に動いてもらう、教える、指示を出す、連絡をする、報告を受けるなど、仕事では人と人とのやり取りが必要で、人と人とのやり取りが一番影響します。

部下が何度言っても出来ない、入社して何年も経つのに出来ない。メモを取ろうとしない。見て覚えようとする。状況を見て動けない。言われたことしか出来ない。何で出来ないのだろう？ という話をよく聞きます。もっと詳しく聞いていると

普通こう言えばわかるよね？

もう〇年もいるのだから〇〇が出来ないなんて普通じゃない、おかしい。

教えてもらう時は普通メモ取るでしょう？ 言われなくてもあたりまえのことなのに。

普通周りの人が何しているか見てるよね？ 見て覚えようとするのがあたりまえだと思うのだけど。

普通急に忙しくなったら、何を優先するかわかるよね？

普通自分で考えて時間見て動くよね？

こんな話がたくさん出てきます。ここに共通するのが「普通」とか「あたりまえ」です。

この「普通」とか「あたりまえ」が自分の中での常識や価値観、仕事観であることを、自分の物差しで相手を見ていることを忘れないようにしましょう。

一昔前は常識やあたりまえとされていたことが、今はそうではなかったりもします。

教育の目的は何ですか？「部下に仕事ができるようになってもらう事です」

相手が何をあたりまえとっていて、何を常識だと思っていて、どんな仕事観を持っているのか、分かった上で、教え方を考えたり、伝え方を変えたりしないと、なかなか伝わらず、出来るようになりません。自分の中の常識にとらわれず、その相手に理解できるような伝え方や教え方に変えて見ましょう。

— 企業を存続していくために必要な事 —

変化の激しい時代、この30年でいろいろな事が急激に変化してきました。世の中の流れについて行く、競合他社と競っていく、顧客満足に答えていくためには、企業の成長は不可欠です。

企業が成長していくためには、一人一人が成長していくことが不可欠です。一人一人がアップデートやバージョンアップをすることが必要です。これは、役員、役職者、社員を含めた全員に対して言えることです。

今、この会社がやらなければならないこと、やりたいこと、進みたい方向に進むためにはどんなことを成長させることが必要なのかを常に考えて、全員が成長していく必要があります。

そのやらなければならないこと、やりたいこと、進みたい方向性が、経営方針書や経営計画に書かれているはず。そのために、どんな教育や学びが必要なのかを具体的に部や課や個人の目標にしていきましょう。

自動化やAIなどの進歩も激しいですが、機械を動かす、機械と共存していくのは人です。一人一人の人財が大切なのです。今いる人財を大切に、同じ方向を見て互いに成長できる企業こそが10年後20年後30年後にも存続していくことができます。